



令和五年 神無月

城北中だより

城北中学校教育目標

- 思いやりのある生徒
- 真剣に学ぶ生徒
- 健康な生徒

令和5年9月28日発行

「プラス受信」でピンチをチャンスに！

校長 和田 卓也

ようやく、朝晩の涼しさを感じられる日も増えてきたところですが、皆様、いかがお過ごしでしょうか。日中はいまだ「真夏」といえるような状況の中、運動会等、生徒たちの活動する場面をご参観いただけたことに対し、この場をお借りして感謝申し上げます。



さて、今月号は、「今、頑張っている生徒達に伝えたい話」として「出来事の捉え方」について書かせていただきます。

高校入試においても、また、就職時の入社試験においても「面接」があります。ある大手企業の社長は、面接で学生達に「あなたの人生は今までツイていましたか？」（運がよかったですかという意味）と質問し、その質問に「ツイていました。」と答えた人を採用したそうです。これは、どうしてなのでしょう。実はこの質問は、ある発想ができる人間かどうかを見極めるために行われてそうです。それは、「プラス受信」という発想です。

「プラス受信」とは、あらゆる出来事をプラスに受け止める発想法です。世の中の出来事は、どんな嫌なことでも、受け止め方によっては、プラスに解釈することができるのです。例を挙げてみます。

- 先生に叱られた→おかげで成長できた。
- 友達と喧嘩した→友達の考え（気持ち）が分かった。
- 足を怪我して練習ができない。→外からその競技を見たことで、自分のプレーの質が高まった。
- 学級でトラブルが起きた。→学級がまとまる（成長する）チャンスだ。
- 辛いことがあった。→自分を成長させるチャンスだ。
- 試合に負けた。→伸びしろしかない。等

全ての出来事は前向きに考えればチャンスとなり、後ろ向きに受け止めればピンチとなります。

「どんなことが起きたか」は問題ではありません。「どう受け止めたか」が大切です。チャンスにできない出来事はありません。チャンスにしない人がいるだけです。そんな「プラス受信」になるための2つのコツは、①この出来事は、自分にとってなることだと考えること。②ピンチを楽しむこと。だと紹介されていました。ちなみに最初に紹介した、ある大企業が「人生ついていきます。」と答えた人を採用した理由は、「人生ついていきます。」と答える人は、「周囲に感謝ができる人」であり、「ストレスに対しても強い人」であり、「問題が起こっても解決しようとする人」であると考えているからだそうです。そう考えると「プラス受信」できる力は、大切な「生きる力」に1つといえるかもしれませんね。

今、まさに学校では、「実りの秋」という言葉通り、文化発表会や体育祭、生徒会選挙、新人戦に始まり、今後も合唱コンクールや市内駅伝大会等、様々な学校行事が行われます。諸行事では、一人ひとりの思いが強ければ強いほど、いろいろと壁にぶつかることが多いものです。そもそも、思春期とは悩みの多い年代であることも踏まえると、壁にぶつかった時や悩んだときに、発想を変え、プラスに受け止めさせていくことを心掛けてもらいたいと考えております。そのためにも、まずは私を始め教員や保護者等の周りの大人も率先して「プラス受信」の発想を心掛けていただけると幸いです。